平成21年3月4日

21世紀文明研究セミナー

生き抜く「美術館」・「美術館」は生き抜く

（14:00～15:30　於レクチャールーム）

尾野正晴（滋賀県立近代美術館前館長）
熊田　司（大阪市立近代美術館建設準備室研究主幹）
越智裕二郎（当館企画・学芸部門マネージャー）

1　はじめに　越智
　あらためて美術館とは？

2　尾野正晴
　滋賀県立近代美術館中期経営計画

3　熊田司
　新しく建設が討議されている大阪市立近代美術館について、及びその建設されることの意義

4　討議

滋賀県立近代美術館中期経営計画の概要

策定の趣旨

開館25周年を目前にして、社会が求めているものを見極め、今後、美術館が歩むべき道筋を明らかにする。

（計画期間：平成21年度から平成23年度の3年間）

美術館の現状

○収集方針と収蔵品の状況
・絵画：673点、版画：145点、彫刻34点、工芸：418点、
その他：78点　合計：1,348点

○来館者の推移と特徴
◇開館以来24年間の展覧会観覧者数：2,845,000人（展覧会数：163回）
◇展覧会観覧者は減少（年間観覧者数）
・開館10年目まで：141,000人→11年目から20年目まで：100,000人
→21年目から24年目まで：88,000人
◇来館者の特徴（平成17年度から同19年度のアンケート結果から）
・女性：56%、男性44%　県外：61%、県内：39%
・初めて来館：43%、2から5回：32%、6回以上：19%

○財務状況
◇美術館運営の予算は漸減傾向
・全体決算額：321百万円（平成11年度）→187百万円（平成19年度）
・企画展決算額：92百万円（平成11年度）→79百万円（平成19年度）
◇企画展の自主財源比率は60%前後で推移

目標（使命）

展覧会中心の施設から、教育中心の施設に移行することを目指します。

●学びの場としての美術館を目指します。

●出会いの場としての美術館を目指します。

●美的感性を育む場としての美術館を目指します。

※数値目標の設定

項目	19年度	21年度	22年度	23年度
展覧会の自主財源比率	61%	63%	65%	70%
美術館講座等の開催	20回	25回	28回	30回
ワークショップの開催	29回	35回	38回	40回
アウトリーチの開催	13回	15回	18回	20回
ギャラリーの稼働率	83.8%	85%	88%	90%
ミニギャラリーの稼働率	0%	30%	40%	60%
企画展示室の貸出	0日	6日	12日	24日
講堂の貸出	0日	3日	5日	7日

目標達成に向けた取り組み

○作品の収集、資料の整理
・購入以外の方法（寄贈、寄託）を積極的に推進
・所蔵品、資料の検索システム導入の検討

○調査・研究
・収蔵品や地域に即したテーマの調査・研究を行い、
研究紀要や展覧会で県民に還元
・学芸員の能力開発、資質向上

○展示事業
・企画展を年3～4回に削減
・収蔵品を生かした企画展を年1回開催
・企画展と連携した常設展や子どもを対象の常設展を開催

○教育事業
・美術館講座、ワークショップ等を拡充
・博学連携、学校連携を強化
・ミニギャラリーを整備し、若手芸術家の育成

○県民との協働
・地域社会との連携を推進
・美術館サポーターや友の会の活動や事業の拡充
・ギャラリーの利用促進、企画展示室の貸出

○ネットワークの強化
・協働事業の実施等、県内文化施設との連携の促進
・文化ゾーン内の施設との連携
・県内美術家、文化芸術団体との連携

○来館者サービスの向上
・来館者アンケートの意見、要望を館運営に反映、公開
・専門家による緻密な来館者調査を実施し、館運営に反映
・接遇研修などによるさわやか応対

○効果的・効率的な広報の展開
・パブリシティと口コミの活用
・展覧会の内容に応じた対象者への、きめ細やかな広報
・親しまれるホームページへの改良とタイムリーな情報提供
・広報連絡会議による検討と広報予算の効率的な執行

○運営体制の改善
・常勤の館長就任による執行体制の強化
・有識者を交えた外部評価を実施

○財務の改善
・企画展示室の貸出や広告収入等、収入の多角化
・省エネルギーや休館による経費の削減

○施設・設備の適正な管理（リニューアル）
・利用者の安全と収蔵品の保全のための施設整備
・展示環境を保全するための施設整備

大阪市立近代美術館建設計画の推移

昭和58年8月　大阪市制100周年記念事業基本構想の1つとして発表
昭和63年11月 近代美術館構想委員会発足
平成元年4月　大阪市美術品等取得基金設置
平成元年12月 近代美術館構想委員会の答申
平成2年11月　近代美術館建設準備室設置
平成3年10月　市立美術館で「近代絵画への誘い」を開催、以後同館やATCミュージアムで、毎年収蔵作品展を開催
平成3年11月　近代美術館基本計画委員会発足
平成8年5月　大阪大学医学部跡地の埋蔵文化財調査を実施し、船入遺構の石垣の列等を確認
平成10年3月　近代美術館基本計画委員会より、「近代美術館基本計画」の答申を受ける
平成10年4月～11月　収蔵作品を中心とする「佐伯祐三展」を全国5会場に巡回
平成10年10月 近代美術館建設用地として、大阪大学医学部等跡地のうち南半分を購入
平成14年3月　埋蔵文化財現地調査終了
平成14年6月　平成13年度大規模事業評価モデル実施で「近代美術館整備事業の推進は妥当」との意見書が出される
平成15年2月　用地の北半分を国から購入
平成16年10月 「心斎橋展示室」を開設し、コレクション展など年18日程度開館
平成17年10月～18年10月 収蔵作品を中心とする「吉原治良展」を全国4会場に巡回
平成19年1月～7月　大阪コレクションズ開催 入館者数3館で約15万人（国立国際美術館・近代美術館建設準備室〈心斎橋展示室〉・サントリーミュージアム[天保山]3館共同開催）